

第2学年 社会科学学習指導案

三次市立川地中学校
教諭 松本 温三

- 1 日 時 平成28年7月6日(水)
- 2 学 年 第2学年(男子10名 女子9名)
- 3 単 元 名 欧米の発展とアジアの植民地化
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会[歴史的分野]の内容項目(5)近代の日本と世界「ア欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。」に基づき設定している。

本単元では、資料に基づき多面的・多角的に考察させる学習活動を行う。本単元で扱う17世紀後半から19世紀前半の世界の動きは、政治面ではイギリスを中心としたヨーロッパ諸国において、市民革命によって国王の権利を制限し自由や平等などの権利を認めさせ、経済面では産業革命によって生産の仕方が変わり、資本主義経済が誕生する時代である。政治面での事象と経済面での事象が相互に関連しながら大きく社会が変化した時代であり、また、市民革命では支配層と被支配層、産業革命では資本家と労働者、植民地支配では宗主国と植民地といったように、それぞれの立場を通して社会構造やその変化を捉えることができる時代であることから資料を基に読み取った事象を多面的・多角的に考察させ、関連付けることで時代の特色を捉えさせる単元構成とする。

(2) 生徒観

昨年度1月に実施した三次市学力到達度検査では、正答率の学年平均が58.6%で、全国平均を4.5ポイント上回ったが、市平均を0.2ポイント下回った。また、基礎においては全国平均を4.2ポイント、活用においては6.9ポイント上回ったが、「中国のGDPについて、資料を基に判断する問題」「カカオの生産について、複数の資料を基に判断する問題」「古代までの日本の様子について、提示された資料と関連の深い内容を選択する問題」など資料を活用する問題では、正答率が目標値を大きく下回った。このことから、資料を基に考える力や、複数の資料から読み取った事象を関連付け、既存の知識を用いて考察し説明する力に課題があると考えられる。

(3) 指導観

資料を基に考える力や、複数の資料から読み取った事象を関連付け、既存の知識を用いて考察し説明する力を育てるために、本単元では資料を基に課題を設定させ、多面的・多角的に考察させる学習活動を行う。そのため、学習のはじめに資料を基に事象同士を比較したり、事象と既存の知識を比較したりすることで共通点や相違点に気付かせ、ずれを認識させて生徒に疑問をもたせる。そして、疑問を基に時代の特色を捉えることのできる単元を貫く課題を設定させ、その課題を解決するために、個別の事象を調べさせ、多面的・多角的に考察させる。最後に調

べ、考察したことをまとめさせ、時代の特色として捉えさせる。以上のような単元構成・学習活動によって、資料を基に考える力や、複数の資料から読み取った事象を関連付け、既有的知識を用いて考察し説明する力を育成する。

5 単元の目標

- イギリスをはじめとする欧米列強は市民革命や産業革命によって近代市民社会を成立させ、国力を高める中でアジアに進出したことを理解することができる。

6 単元の評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての 知識・理解
市民革命や産業革命によって近代市民社会を成立させたイギリスのアジア進出について関心を高め、時代の特色を捉える課題を設定しようとしている。	市民革命や産業革命によって近代市民社会を成立させたイギリスのアジア進出を基に、時代の特色を捉える課題を設定し、多面的・多角的に考察・判断し、適切に表現している。	市民革命や産業革命によって近代市民社会を成立させアジアに進出したイギリスに関するさまざまな資料から、必要な情報を選択して読み取っている。	市民革命や産業革命によって近代市民社会を成立させたことが、イギリスをはじめとする欧米列強のアジア進出につながったことを理解し、その知識を身に付けている。

7 指導と評価計画（全5時間）

次	学習内容	評 価				評 価 規 準	評価方法
		ア	イ	ウ	エ		
1	時代の特色を捉えるための課題の設定 【本時】	○	◎			・イギリスのアジア進出について関心を高め、時代の特色を捉える課題を設定しようとしている。 ・資料を基に多面的・多角的に考察し、時代の特色を捉えることのできる単元を貫く課題を考え、表現している。	授業観察 ワークシート 発表
2	イギリスのアジア進出と抵抗するアジア			○	◎	・アヘン戦争に関する資料を活用し、読み取っている。 ・アヘン戦争でイギリスが清国に勝利した理由をイギリスの近代化と関連付けて理解している。	授業観察 ワークシート 発表
3	イギリスとアジアの貿易			○	◎	・イギリスとアジアの貿易に関する資料を活用し、読み取っている。 ・イギリスでは、綿織物業において産業革命が始まり、製品の市場や原料の供給地を求めてアジアに進出していくことを理解している。	授業観察 ワークシート 発表
4	イギリスにおける市民による議会政治の誕生			○	◎	・イギリスの市民革命の特色に関する資料を活用し、読み取っている。 ・イギリスでは、市民による議会政治が実現し、国民国家を形成していくことを理解している。	授業観察 ワークシート 発表
5	時代の特色を捉える。新たな課題の設定		◎			・イギリスのアジア進出について、学習したことを基に多面的・多角的に考察して時代の特色を捉え、表現している。	授業観察 ワークシート 発表

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・欧米列強のアジア進出に関心をもち、時代の特色を捉える課題を設定することができる。
- ・中世のヨーロッパと近代のヨーロッパの比較を通して、市民革命と産業革命によって近代国家が成立するという時代の特色を捉えることができる、単元を貫く課題を考察することができる。

(2) 準備物

ワークシート, 電子黒板

(3) 学習の展開

	○教授・●学習活動	◇指導上の留意点 ◆要支援生徒への手立て	評価規準 (評価方法)
導 入	<p>○19世紀の世界は16世紀の世界に比べて、どのように変化しているだろう。</p> <p>●資料を基に読み取った事象を比較して共通点や相違点をワークシートに記入し、発表する。</p>	<p>◇単元を貫く課題の設定→予想→学習計画という本時の流れを確認させる。</p> <p>◇資料1「16世紀のヨーロッパの支配地域」と資料2「19世紀のヨーロッパの支配地域」を比較して共通点や相違点で気付いたことをワークシートに記入させる。</p> <p>◆資料1と資料2を比較して、大きく変化している点に着目させ、共通点や相違点を考えさせる。</p> <p><予想される生徒の意見> 【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16世紀も19世紀もヨーロッパ諸国が世界に進出している。 ・19世紀にイギリスの植民地もフランスの植民地も増加している。 <p>【相違点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀にはイギリスの植民地が増加している。 ・19世紀にはポルトガルの植民地が減少している。 ・16世紀にポルトガルが支配していた地域の中で19世紀には空白になっているところがある。 ・16世紀と19世紀ではヨーロッパ諸国の進出ルートが違う。 	<p>・イギリスのアジア進出について関心高め、時代の特色を捉える課題を設定しようとしている。(観察)</p>
展 開	<p>○16世紀の世界について整理してみよう。</p> <p>●ポルトガルに関する既存の知識を整理する。</p> <p>○次のような質問をして答えさせる。</p> <p>Q.「鉄砲はどこから日本に伝わったのだろう」</p> <p>Q.「ポルトガルはなぜ、アジアやアメリカ大陸に進出したのだろう」</p> <p>Q.「ポルトガルは当時、どのような国だったのだろう」</p> <p>○各自で疑問をワークシートに記入させる。</p> <p>●共通点や相違点と既存の知識を基に、疑問をワークシートに記</p>	<p>◇教科書を見ながら個人で整理させる。</p> <p><予想される生徒の答え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガルは戦国時代の日本に来航して、貿易や布教を行った。 ・ポルトガルは香辛料などを得るためにアジアやアメリカ大陸に進出した。 ・ポルトガルはスペインと共に広大な植民地を保有し、海上帝国として繁栄した。 <p>◇読み取った共通点や相違点を基に、既存の知識と関連付けて疑問に思ったことをワークシートに記入させる。</p>	<p>・資料を基に、多面的・多角的に考察し、時代の特色を捉える</p>

	<p>入する。</p> <p>○16世紀と19世紀の世界を比べて追究したい課題を考えてみよう。</p> <p>●疑問を総合し、単元を貫く課題を設定する。</p> <p>●各自で考えた疑問を発表してクラスで追究する課題を決める。</p> <p>○19世紀の世界について理解するためには、どの国を中心に追究すればよいだろうか。</p>	<p><予想される生徒の記述></p> <ul style="list-style-type: none"> ・16世紀では強大であったポルトガルが、なぜ19世紀では勢力が衰えているのか。 ・19世紀では、なぜイギリスの支配地域が拡大したのか。 ・19世紀では、かつてポルトガルなどが支配していたアフリカやブラジルの地域がなぜ、空白で示されているのか。 ・16世紀と19世紀では、なぜヨーロッパ諸国の進出ルートが違うのか。 <p>◇類似した疑問をグループ化させる。</p> <p>◇時代の特徴を捉えることのできる、単元を貫く課題を考えさせる。</p> <p>◇既習事項を基に、その課題がふさわしい根拠を考えさせる。</p>	<p>ことのできる単元を貫く課題を考え、表現している(ワークシート)</p>
<p>展 開</p>	<p>○設定した課題の答えを自分なりに予想してみよう。</p> <p>●課題の答えを各自で予想して発表する。</p> <p>○予想を確かめるために何を調べればよいか考えてみよう。</p> <p>●第二次以降の学習計画を考えてワークシートに記入し、発表する。</p>	<p>◇なぜそう予想したのかという根拠もあわせて発表させる。</p> <p>◆新しく配付した資料3～資料5を基に予想させる。(資料3「ポルトガル・イギリス・フランスの海軍力の推移」、資料4「ポルトガル・イギリス・フランスの対アジア貿易船の数の推移」、資料5「ポルトガルとイギリスの政治体制の比較」)</p> <p><予想される生徒の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスには強力な武器があったから。 ・イギリスは貿易で国を豊かにしたから。 ・イギリスは政治を議会政治に変えたから。 <p><予想される生徒の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスに強力な武器があったのかを確かめるために、アヘン戦争について調べる。 ・イギリスが貿易で豊かになったのかを確かめるために、イギリスとアジアの貿易について調べる。 ・議会政治に変わったこととイギリスが強大な国になったこととの間に関係があるのかを確かめるために、市民革命について調べる。 	<p>・資料を基に、多面的・多角的に考察し、時代の特徴を捉えることのできる単元を貫く課題を考え、表現している。(ワークシート, 発表)</p>
<p>終 末</p>	<p>●振り返りを記入して発表する。</p> <p>●次の時間の予告を聞く。</p>	<p>◇本時の学習の感想や疑問に思ったことについて書かせる。</p> <p>◇単元を貫く課題を解決していくために、第二次以降、学習計画に基づいて調べ、考察していくことを伝える。</p>	

予想される単元を貫く課題 「なぜ、イギリスは強大な国家になったのだろう。」